

インターバンクの声（2015 年 12 月 15 日）

昨夜のニューヨーク商業取引所（NYMEX）の原油先物相場が、何と 1 バレル当たり 34 ドル台まで下落した。さすがに売られ過ぎとの見方から反発に転じ、先週末の価格よりも少し高い水準に戻したが、とにかく原油価格がほぼ 7 年ぶりの安値取引が続いているとあって株式相場や為替相場に対する影響も大きくなっている。昨夜もドル円がニューヨーク市場の終盤に向けて 120 円 30 銭台から 121 円まで戻ってきたが、原油価格の反発がなければ 120 円割れを試すような展開があったのかも知れない。それにしても最近の為替市場では、この原油価格の低迷も一つの要因ではあるが、年末、そして来年に向けてやたらと円高の相場予想が増えているような気がする。好調さを維持させている米経済が利上げ実施後、ほどなく景気失速を迎えてしまい、金融正常化どころか再び追加緩和に迫られるようなシナリオを前提に掲げるような専門家の予想ならいざ知らず、3 年～5 年間変わらず同じ論旨展開で円高相場を予想し続けているような専門家の予想は困ったものだ。相場に感情を持ち込むのはまずいが、素直に円高に戻すような相場予想に賛同できない仲間が非常に多いのは確かだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。